

モンゴルの自然環境を見て考える

大串龍一

河北潟湖沼研究所

〒920-0051 石川県金沢市二口町八58

要約：2005年，2006年のモンゴル国訪問で体験した草原，砂漠地帯の自然環境のうちで，とくに注目した幾つかの点について報告し，考察した．

- 1．モンゴルでは首都ウランバートル，中部草原地帯を通じて，野鳥を見かけることが多かった．一様に見える自然環境が多様であることを推察させる．
- 2．中部草原地帯を流れる，よく似た大きさのオルハン川とオングィ川を比較してみると，川辺の植物群落，放牧家畜群，水流などに目立った違いが認められた．オングィ川の流域の自然環境が，オルハン川にくらべて動植物を中心とする生態系が単純で，人間の影響で壊れやすいことが推測された．
- 3．現地の環境保全NGOなどが進めている，河川が枯渇して困窮する牧畜民支援のためのサジ（グミ科の果樹の一種）栽培の現状と，その問題点について検討した．
- 4．中部草原地帯における遊牧家畜群にかんする問題点，とくに現在ほとんど指摘されていない野生動物との共存について論じた．
- 5．草原地帯における国道の管理が不十分なために，その周囲に生じている草地の裸地化と，土壤浸食（風による）について観察した状況を報告した．

キーワード：モンゴル，草原生態系，遊牧，サジ，野生動物，裸地化